

文教委員会

日程 (令和7年)	7月23日～7月25日(3日間)
調査都市	長崎市 武雄市 熊本市
視察参加者	委員長 副委員長 委員 熊谷誠一 山田一郎 松井隆文 村上ゆうこ 松原淳二 うるしはら直子 福田浩太郎 小形香織 山口かずさ
	随行書記 富樫文哉 小齋健太
調査項目	1 全天候型子ども遊戯施設について 2 武雄市図書館について 3 日本語指導拠点校について

長 崎 市

【全天候型子ども遊戯施設について】

1 開館に至るまでの経緯について

(1) 背景と市民ニーズ

長崎市では、雨や夏の暑さなど天候に左右されない屋内の遊び場を求める市民の声が非常に高くあるとともに、核家族化による孤立感や子供同士・多世代間の交流減少も課題であった。

このため、令和元年8月から令和5年3月にかけて実施した「こども元気プロジェクト」の事業の一つとして子どもたちが遊びながら成長でき、かつ子育て相談もできる場所をつくることで、環境の充実を図ることを目的として整備を進めることとなった。



熊谷 誠一 委員長

(2) 経過

- ・平成10年3月：長崎市いこいの里条例制定（現・長崎市あぐりの丘条例）
- ・平成10年7月：農業体験型施設「あぐりの丘」として開園。当初は農畜産物加工施設（ミルクプラント、ソーセージ工房）、レストラン、ビール工房、ミニ遊園地などを整備。
- ・平成13年4月：維持管理会社の解散により、市が維持管理を行うこととなる。
- ・平成18年4月：運営会社の撤退により、運営も市直営となる。
- ・平成21年度：「いこいの里再整備計画」を策定し、「市民参加で創る、人と自然のつながりを思いだし体感する場」及び「食農教育」が具体的なコンセプトとなる。
- ・平成30年度：施設の方向性が「土と自然に親しむレクリエーションの場」から「遊びを通して子どもの成長をみんなで育む施設」へと変更。
- ・令和元年～3年度：アグリ基本計画策定を経て実施設計後、建設に着手。
- ・令和4年度：遊戯施設（あぐりドーム）が完成し、あぐりの丘に指定管理者制度を導入。



山田 一郎 副委員長

※あぐりの丘について

子どもを中心として、若者及び高齢者を含む全ての世代に、豊かな自然及び多様な施設を活かした遊び、体験、交流等の場を提供することにより、子どもの健やかな成長を育むとともに、市民のレクリエーションに資することを目的に設置。

○コンセプト

- ・自然環境や全天候型子ども遊戯施設等を活かした遊び・体験を与える場。
- ・子どもを中心として、すべての世代が集い、楽しみながら世代を超えた交流の輪が広がる場。
- ・自然の風や光、季節を体感するとともに、施設を活用しながら心身のリフレッシュを醸成する場。

2 施設の概要、施策等について

(1) 概要

- ・名称：全天候型子ども遊戯施設（あぐりドーム）
- ・構造：鉄骨造平家建

長 崎 市

- ・延床面積：1,753.67㎡
- ・設置目的：子どもの好奇心、自主性、想像力等を育むため、天候に左右されずに子どもが安心して自由に遊び、交流等ができる。
- ・コンセプト：天候や年齢、障害の有無等に関わらず、子どもが安全・安心に遊べる。子どもがのびのびと遊びながら健やかに成長できる。子ども同士の交流の輪が広がる。



外 観

(2) 建設費

8億4,145万6,336円

(内訳)

- ・主体工事費：660,865,700円
- ・電気工事費：63,437,000円
- ・管工事費：117,153,636円

(3) 開館時間・休館日・入館料

- ・開館時間：午前9時から午後5時までの時間帯を基本とし、1日8時間以上
- ・休館日：毎週水曜日（学校の休業期間（夏休み等）を除く）、水曜日が休日の場合は翌営業日、及び年末年始。
- ・入館料（個人・1回につき）：子ども（小学生まで） 250円（1歳未満は無料。）
子どもの保護者等 100円
中高生等（子どもを除く） 100円
- ・あぐりの丘（ドームを除く）の入園料・駐車場使用料：無料。



松井 隆文 委員

(4) 主な遊具（例）



長 崎 市

3 運営方法等について

(1) 指定管理者について

- ・名称：グロウスピーア共同事業体
- ・代表団体：株式会社KTNSサエティ（広告代理店業務、プロダクション業務、催事事業業務、ビル総合管理業務、人材派遣業など）
- ・構成団体：株式会社大和総業（建築物環境衛生管理、設備管理、清掃業務など）
株式会社松田久花園（造園工事、土木工事一式など）
株式会社森谷商会（建設機械・産業用機械・土木資材の販売・レンタル、イベント式典関係資材レンタルなど）

(2) 利用状況（令和7年7月時点）

- ・あぐりドーム来館者数：約29か月で30万人を突破。
- ・令和6年度（小計）：あぐりの丘全体の来園者数282,792人のうち、あぐりドーム利用者は115,547人。

4 その他（利用者からの評価）

アンケート（令和6年度実施）の結果、高い満足度が示されているが、アクセスや利用時間に関する改善要望があった。

(1) 満足度

- 施設：「満足」「やや満足」87%
- スタッフ対応：「満足」「やや満足」約85%
- 料金：「満足」「やや満足」約84%
- 予約：「満足」「やや満足」82%。

(2) 主な意見

【肯定的な意見】

- ・雨でも遊べる非常に良い場所ができてありがたい。
- ・清潔感があり、遊びやすい。

【改善要望】

- ・遊戯時間が90分と短いため、無制限にしてほしい。
- ・バスの運行が少なく、アクセスがしにくい。
- ・もっと遊具が増えると良い。



<委員からの主な質問と回答>

Q：屋根がテントのような膜構造に見えるが、空調設備は入っているのか。夏場はかなり暑くなるのでは。

A：大型の空調設備を導入している。膜屋根ではあるが、遮熱性の高い素材を使用していること、空調稼働させることで、夏場でも快適に遊べる環境を整えている。

Q：土日も含め非常に多くの利用者がある中、常時どの程度のスタッフを配置し、安全性を確保しているのか。

A：平日で常時3名から4名程度のスタッフをドーム内に配置している。特にボルダリングのエリアや、大型ネット遊具の周辺など、事故が起きやすい場所には重点的に配置し、危険な遊び方をしていないか見守りしている。また、土日祝日や夏休みなどの混雑時には、スタッフを増員している。

Q：自家用車での来場がメインであると思うが、車を持っていない家庭や、中高生などが自分たちで来るには少しハードルが高いように感じる。市として何かアクセス面で対策など考えているのか。

A：アクセス問題は、市として課題と認識している。現状は、お見込みのとおり、来場者のほとんどが自家用車を利用している。路線バスもあるが、本数が限られている。イベント開催時などは臨時バスを出すこともあるが、恒常的な増便は採算性の面から難しく、抜本的な解決には至っていない。

武 雄 市

【武雄市図書館について】

1 開館（リニューアル）に至るまでの経緯

(1) 背景と課題

平成12年に開館した旧図書館は、利用者の固定化や来館者数の伸び悩みが課題となっていた。特に若年層や子育て世代（30代～40代）の利用が少なく、魅力ある施設づくりが必要とされていた。

このため、武雄市では図書館を「まちづくりの核」と位置づけ、移住・定住や関係人口の増加につなげることを目的に、リニューアルすることとなった。



外 観

(2) リニューアル方針

《新しいスタイルの武雄市図書館づくり》【方針】

◆本の貸出、読書以外でも **図書館の利用促進を図る**

《学習の場》 《交流の場》 《楽しめる場》

- 目指す図書館像 ⇒ **地域コミュニティー、情報の拠点**
- 利用者 ⇒ **新たな発見に繋がる場所**（やり甲斐、生き甲斐など）
 - ・図書館に縁遠い人、若い女性の利用促進 ⇒ **新たな図書館利用者の開拓**
 - ・利用者目線にこだわったサービス、運営 ⇒ **利用者の満足度アップ(KPI)**

◆いつでも利用できる図書館

◆居心地のいい図書館 **を実現したい**

※構想実現のため、行政(武雄市)は民間(CCC株式会社)と連携して
「新しい図書館づくり」に取り組んだ

(3) 整備方針、こども図書館について

平成25年4月にカルチャ・コンビニエンス・クラブ（CCC）株式会社を指定管理者とし、リニューアルオープン。指定に当たっては、スピード感を重視したため、公募ではなく随意契約とした。

公立図書館に民間書店のノウハウを取り入れ、カフェや書店を併設した新しいスタイルの図書館として整備した。

平成29年10月に敷地内に「武雄市こども図書館」を新設し、多世代交流機能を強化した。



村上 ゆうこ 委員



松原 淳二 委員

武 雄 市

2 施設の概要について

(1) 開館時間・休館日

午前9時から午後9時（365日開館）、年中無休とすることにより利便性を向上させた。

(2) コンセプト

「市民の生活をより豊かにする図書館」を掲げ、「学習の場」「交流の場」「楽しめる場」を提供。図書館・書店・カフェ（スターバックス）が融合し、飲み物を飲みながら館内の本を閲覧可能（ブック&カフェスタイル）。

(3) 主な特徴

ア ライフスタイルの提案

独自の22ジャンルによる図書分類や、書架の配置を工夫し、新たな本との出会いを創出。

イ イベント

年間1,000回以上の講座やワークショップを開催し、市民の「やり甲斐・生き甲斐」づくりを支援。

ウ こども図書館

「遊び・学ぶ・育つ」をテーマに、読み聞かせや知育体験を提供。九州パンケーキカフェも併設。



内 観



うるしはら 直子 委員

3 運営方法等について

(1) 指定管理者

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）。

※図書貸出だけでなく、蔦屋書店やスターバックスの営業も同社が一体的に運営。

(2) 利用状況

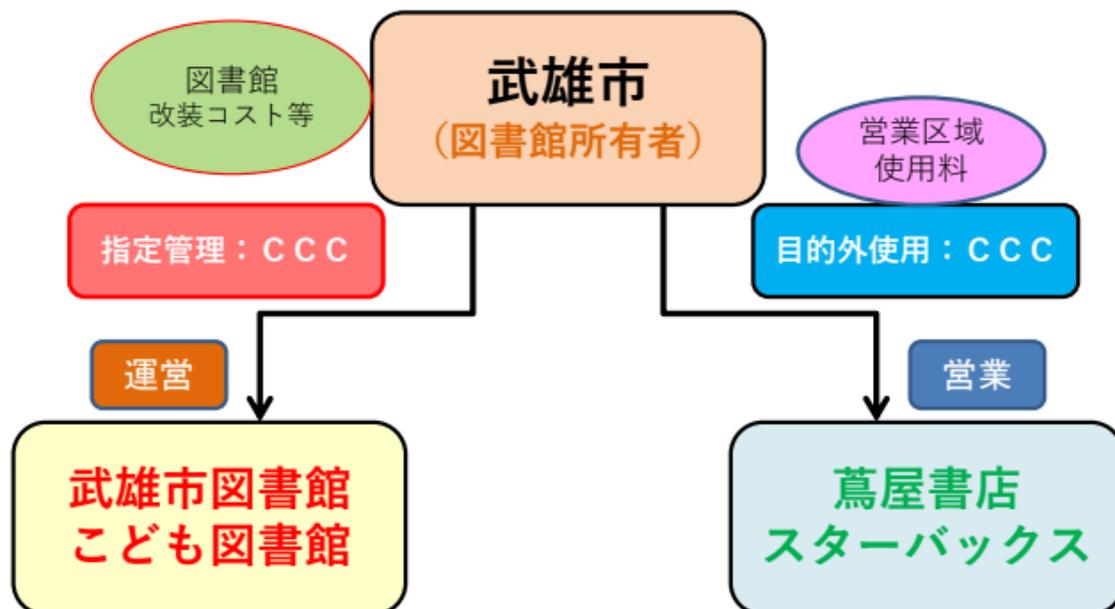
リニューアル後、来館者数は劇的に増加し、平成25年度（初年度）は約92万人を記録（リニューアル前は約25万人）。令和5年度の来館者数は約87万人、貸出冊数は約37万冊となっており、高い水準を維持している。

武 雄 市

(3) ビジネスモデルについて

図書館運営費用は指定管理料で賄っており、指定管理者は営業区域で利益を生むシステムとなっている。

武雄市図書館のビジネスモデル（指定管理者制度）



4 施設調査について

説明聴取の後、施設内の視察を行った。

<委員からの主な質問と回答>

Q：指定管理になって以降、来館者数が劇的に増えたという話だったが、図書の貸出冊数、図書館本来の利用状況が、どのように変化したのか。また、スターバックスや書店が併設され、商業的な要素が入っているが、公立の図書館として、商業施設と公共施設のすみ分けや、そのバランスをどのように整理して運営しているのか。

A：貸出冊数はリニューアル前から約1.6～1.7倍に増加したが、近年は少し落ち着いてきており、冊数自体は横ばい、あるいは微減の傾向がみられる。これは全国的な傾向でもあり、電子書籍の普及等が理由と考えられる。商業施設と公共施設のバランスについて、物理的なゾーニングとして入ってすぐの場所や人通りの多い一等地にスターバックス等を配置し、賑わいを創出している。一方で、奥のスペースや学習室などは静かな環境を保てるよう配慮している。商業施設があることで、商業が公共（読書）への入り口、ゲートウェイの役割を果たしていると考えおり、相乗効果が見込めるものと考えている。

Q：地元の書店への影響はあったのか。

A：リニューアルオープンの際、地元書店組合の方々とは何度も話し合いを持ち理解を得ていった。その結果としてオープンから現在に至るまで、図書館ができたことが直接の原因で倒産・廃業した市内の書店は把握している限りでは無い。

Q：現在の指定管理料はいくらか。リニューアル前と比較して市の財政負担はどのようになっているのか。

A：指定管理料は現在、5年間の協定を締結し、年間約1億1,400万円程度支出している。リニューアル前の直営の頃と比較すると、開館時間が大幅に延びていることや、スタッフの数も増えていることなどを勘案すると、コストパフォーマンスとしては非常に良いと考えている。単純な金額の比較だけではなく、開館日数・時間あたりの単価で考えると、市の負担は実質的に削減できたと考えている。

Q：以前、他の自治体でTSUTAYA図書館が話題になった際、選書内容について議論があったかと記憶している。購入する図書の選定は、指定管理者が全て行っているのか、それとも市の教育委員会等がチェックしているのか。

A：選書の最終的な決定権限と責任は教育委員会にある。流れとしては、指定管理者が利用者のニーズや貸出データ、新刊情報などを元に選書リスト案を作成し、それを教育委員会の司書が一冊一冊確認を実施。その上で、教育委員会からの修正指示があったものを発注している。

熊本市

【日本語指導拠点校について】

1 日本語指導のこれまでの取組について

(1) 経緯

熊本市では、日本語指導を必要とする外国人児童生徒等の増加に伴い、平成11年から文部省指定を受けて黒髪小学校で日本語指導に取り組んできた。平成24年度の政令指定都市移行後、黒髪小学校に加えて、桜山中学校を中学校のセンター校とした。令和5年度には、北区・南区の2拠点校を、令和7年度からは、さらに東区に拠点校を設け、指導にあたっている。

(2) 組織

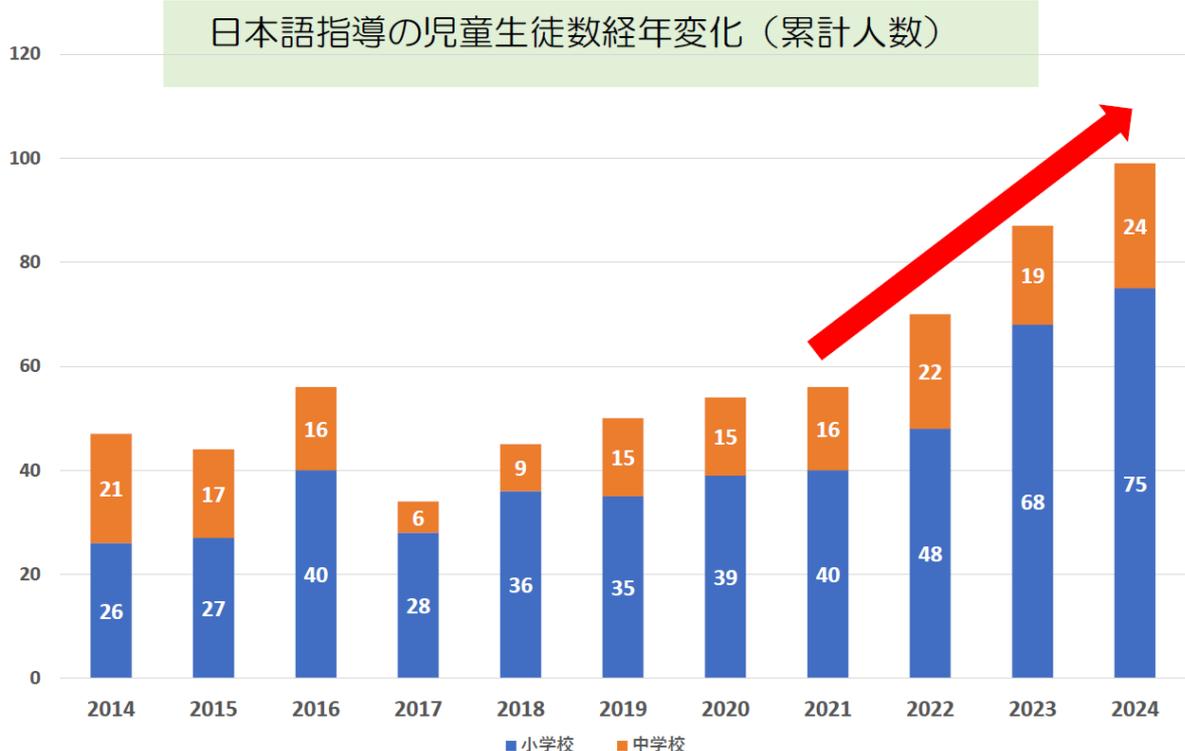
受入れ体制の整備と効果的指導のために、「教育国際化推進連絡協議会」という組織を設置し、各拠点の校長、教員と協力員、支援員、学識経験者ならびに教育委員会事務局学校教育部指導課（以下、指導課）の計37人により運営している。学識経験者は、崇城大学 鹿嶋恵教授に依頼し、アドバイザーとして、日本語指導への助言や研修等をお願いしている。



福田 浩太郎 委員

(3) 人員体制

- ・日本語指導担当教員9人(センター校、拠点校から在籍校に行って指導。)
- ・日本語指導協力員14人(会計年度任用職員。指導担当教員を補佐し、協力して指導。)
- ・日本語指導支援員4人(会計年度任用職員。編入学時から2週間程度、学校生活をサポート。うち、1人は指導課勤務。)
- ・学校通訳有償ボランティア(教育委員会登録、編入時や面談時の通訳。希少言語についても、オンラインで対応できるよう企業と連携している。)



熊本市

2 拠点校の拡充について

○拡充1：令和5年度

半導体関連企業の進出等による児童生徒数の増加に加えて、居住地の散在化の課題が出てきた。

そこで、市内全域を網羅できるよう、中央区のセンター校に加えて、北区の楠小と南区の城南小を拠点校とした。拠点校の選定に当たっては、「移動距離が短く、派遣指導がしやすい場所にあること」、「空き教室や空調設備が整っており、教室設置のための予算を抑えることができること」、「在籍があること」を条件とした。

さらに、進路指導等の拠点の必要性から、令和6年度には、桜山中学校をセンター校の兼務校として配置し、中学校の指導の中心とした。

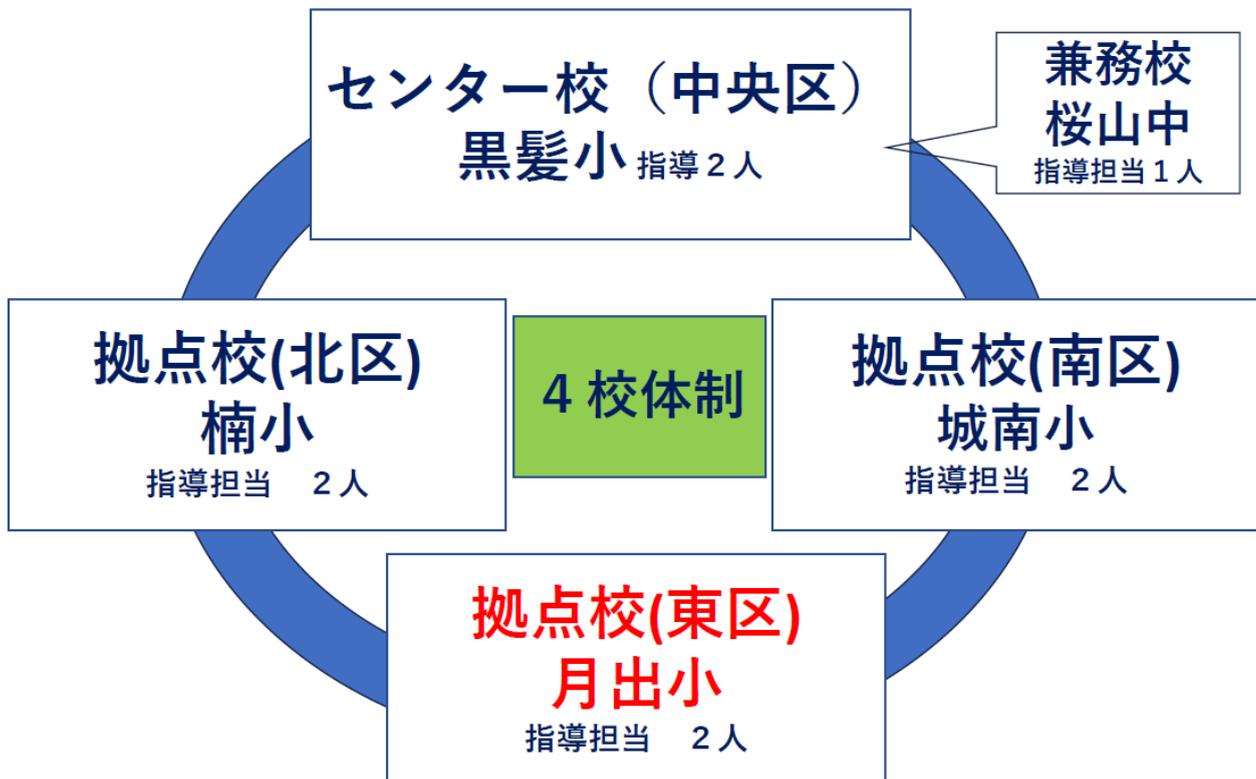


小形 香織 委員

○拡充2：令和7年度

半導体関連企業等の進出の影響もあって、東区への編入学の増加が見られ、東区拠点校の必要性が生じた。そこで、月出小を新たに拠点校として、現在拠点校3校、兼務校1校の体制で指導にあたっている。

拠点校を増設することによって、より近い拠点から在籍校へ指導者を派遣し、移動距離と時間を短縮することができ、指導効率の向上につながっている。



3 今後の取組・課題等について

- ・今後の児童生徒数の把握、見通しが難しく、引き続き他局と連携し、情報収集に努める。
- ・教員不足の中、定数の拡充は困難なため、指導者の確保と育成の課題がある。外国語指導経験や海外日本人学校経験のある教員を日本語指導担当にしたり、退職日本語指導担当

熊本市

教員を協力員に採用したりして、指導の質の向上に努めている。

- ・指導経験や学校現場経験のない協力員の育成にも課題がある。指導の要である授業観察や、ペアを組む教員との相談・打合せがとても有効である。
- また、月1回、時間を固定して情報交換する場を確保する。
- ・児童生徒の多様な教育的ニーズに応えるために、今後も系統的計画的な研修のあり方を模索していく。



日本語教室はどんなところ？

日本語教室「黒髪小」



山口 かずき 委員

<委員からの主な質問と回答>

Q：外国人の増加はT SMCが影響しているのか。

A：編入学の際に保護者の職業等を確認しないため、具体的な数字はわからない。しかしながら、台湾の子どもが増えているため、少なからず影響していると考えられる。

Q：札幌にはセンター校はなく、ボランティアに頼っている状況だが、熊本市の現時点の体制は十分なのか。まだまだ足りてないのか、充実しているのか、どんな状況なのか。

A：拠点校が増える前までは充足していない印象だったが、今年度からは十分な支援ができるような体制になったと考えている。子どもの増加が緩やかであれば、今後も対応できると思うが、急激に増えることがあった場合は、拠点校体制で本当に対応できるのか不安な部分はある。

Q：子どもによって必要な支援の時間数は異なると思うが、どのように対応しているのか。

A：支援は最大で週4時間と決まっており、概ね2時間続きで指導している。当初は週4時間の利用が多く、指導後2年程度経過し、日本語が喋れるようになると指導時間を短縮することもある。定着が遅い子どもは週4時間を継続して行っていることが多い。

Q：指導する教員、協力員、支援員は何か資格が必要なのか、また、どのような方が担っているのか。

A：日本語指導教員は市の教職員が担っており、協力員や支援員は日本語能力の資格、あるいは教員免許を持っている方が多い。必要な資格は特に設けていない。

Q：子どもの母国語を話すことができない指導員もいると思うが、その場合、指導はどのように行っているのか。

A：希少言語を話すことができる先生がほばいないため、タブレット等の翻訳機能を活用しながら指導している。

Q：外国の子どもたちは普通学級に入って、交流したり給食を食べたりしているのか。

A：日本語指導をしている時以外は、普通学級で生活している。

Q：日本語指導に関して、子どもたちや保護者から何か声が上がっていたりするのか。

A：子供たちは非常に喜んで指導を受けている印象がある。保護者からは、「子どもが日本語ができるようになりました、ありがとうございます」という声が届いている。一方、宗教上の理由で、運動会には参加させたくないなど要望があり、その際は個別に対応している。